

【社会】 < 小学校 第5学年 >

1 結果のポイント

「食料生産にかかわる産業」については、資料から必要な情報を正しく読み取る力をみる問題の正答率はすべて80%を上回っている。他方、農作業にかかる時間の減少と関連がある資料を選ぶ力や、これからのわが国の食料の自給と輸入の在り方についてははっきりした理由をもとに考え判断する力をみる問題の正答率は70%台であり、資料を活用して考え、適切に表現する力が十分身に付いているとはいえない。

「工業生産にかかわる産業」については、我が国の工業が機械工業中心であることや鉄鋼が金属工業で生産されていることへの理解をみる問題の正答率はいずれも90%を上回っている。他方、工業のさかんな地域を地図から読み取る力をみる問題の正答率は75%程度であり、地図から地域の特色を読みとる力がやや弱い。

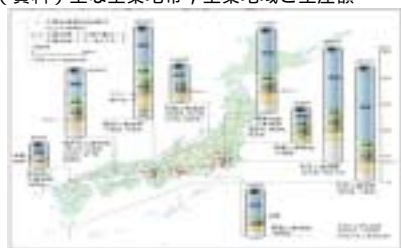
「通信などの産業」については、情報を活用する目的を考えて分類する力や、放送、新聞、電話などの特色についての理解をみる問題の正答率はすべて90%を上回っている。他方、情報の活用について、はっきりした理由をもとに考え判断する力をみる問題の正答率は75%程度であり、資料を活用して考え、適切に表現する力が十分身に付いているとはいえない。

2 結果の分析

(1) 「知識・理解」の力をみる問題の例

< 問題 > 3 の2

(資料) 主な工業地帯、工業地域と生産額



3 下の資料は、日本の主な工業地帯、工業地域とそれらの工業生産額を示した資料です。この資料を見て1～3の問題に答えましょう。

2 左の資料のすべての工業地帯、工業地域で、工業生産額が最も多いのはどの工業ですか。ア～エの中から一つ選びその記号を□の中に書きましょう。

ア 機械工業 イ せんい工業
ウ 金属工業 エ 化学工業

< 結果 > 3 の2 正答率 96.2%

< 分析 >

この問題は「知識・理解」と「観察・資料活用技能・表現」の力を見る問題であるが、「知識・理解」については、「我が国の工業が機械工業中心であること」を確かめる問題である。この問題を含めて「知識・理解」の力をみる問題5問のうち4問の正答率が90%以上であったことから、基礎的・基本的事項は十分身に付いていると考えられる。

(2) 観察・資料活用・表現 の力をみる問題の例

< 問題 > 1 の2

1 正男さんたちは資料を見て話し合っています。1. 2の問題に答えましょう

(資料) 稲作の農作業にかかる時間のうとりかわり(10アール当たり)

作業	1970年	1980年	1990年	2000年	2010年
田植え	13	10	8	7	6
除草	26	20	15	12	10
稲刈り	15	12	10	9	8
稲の乾燥	17	14	11	9	8
稲の脱穀	10	8	7	6	5
稲の選別	10	8	7	6	5
稲の運搬	10	8	7	6	5
稲の貯蔵	10	8	7	6	5
稲の消費	10	8	7	6	5
稲の廃棄	10	8	7	6	5
稲の焼却	10	8	7	6	5
稲の堆肥	10	8	7	6	5
稲の肥料	10	8	7	6	5
稲の農薬	10	8	7	6	5
稲の水管理	10	8	7	6	5
稲の病気対策	10	8	7	6	5
稲の害虫対策	10	8	7	6	5
稲の鳥獣対策	10	8	7	6	5
稲の天候対策	10	8	7	6	5
稲の災害対策	10	8	7	6	5
稲のその他	10	8	7	6	5

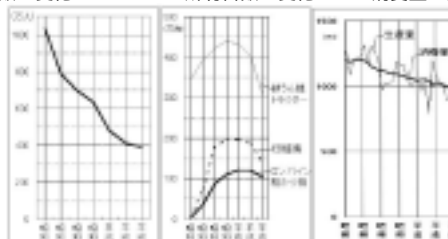
次の□、□にあてはまることばをア～カの中から一つずつ選び、□の中に書きましょう。

先生：稲作の農作業全部にかかる時間はおよそ30年……(中略)……

正男：(A)稲作の農作業にかかる時間が短くなってきたのは、何か理由があるのかな。

2 1の正男さんの疑問(A)について調べる手がかりとなる資料はどれですか。ア～ウの資料の中から一つ選び、その記号を□の中に書きましょう。

ア 農家で働く人の数の変化 イ 主な農業機械の所有台数の変化 ウ 米の生産量と消費量の変化



1

< 結果 > 1 の2 正答率 78.4%

<分析>

この問題は「農作業にかかる時間の減少と関連のある資料を選ぶことができるか」を確かめる問題である。「観察・資料活用・表現」の力を見る問題のうち最も低い正答率でも78%を越えており「観察・資料活用・表現」の力の実現状況は良好であると考えられる。特に「資料から必要な情報を正しく読み取る技能」はよく身に付いているといえる。他方、この問題の誤答の中で「ア」が多いことから、「時間の短縮」と「人の減少」をイメージで関連付けるのではなく、**1**の1の資料から読み取った事実を根拠として資料を選択する技能を身に付ける指導を充実させることが求められる。

(3)「思考・判断」の力をみる問題の例

<問題> **2** の2

- 1 2 みゆきさんたちは「食料の自給と輸入について、これからどうしていったらよいか」について、お互いに意見交かんをしています。四人のうちあなたの意見は誰の意見に最も近いですか。ア～エの中から一つ選び、その記号を の中に書きましょう。

みゆき：消費者はいろいろな国の食料を食べたいだろうし、外国の食料の方が安いから輸入を増やした方がよいと思うわ。(中略)..... よしみ：日本に食料を輸出している国で不作になったらこまるから、国内の自給を高めた方がよいと思うわ。
--

<結果> **2** の2 正答率 75.1%

<分析>

この問題は「これからの我が国の食料の自給と輸入のあり方について、はっきりとした理由をもとに考え判断することができるか」を確かめる問題である。記述式の問題としては、**4**の3とともに高い正答率を示した。ただし、誤答の中には「安全でないと危ないから」等、論理的でないものや根拠が曖昧なもの、選択肢にある文章をそのまま転記したのが見られた。このことから、資料にある事実をもとに「国民の食生活を支える食料生産の意味」を踏まえて考え判断する力や、その結果を表現する力を育てる指導の一層の充実が求められる。

3 分析を踏まえた指導の改善

(1) 指導計画の工夫改善

我が国の食料、工業生産にかかわる産業や情報などの産業についての学習においては、それらが国民生活の維持と向上に役立っていることを考えることができるような適切な事例を重点的に取り上げ、各種の資料を活用したり、実際に調査をしたりする具体的な学習を展開することが大切である。その上で、各産業の今後の在り方を考える態度や国家社会の一員としての自覚を養うことができる指導計画へと改善することが求められる。

評価規準を位置付けた指導計画については、各校で作成されているが、特に「思考・判断」「観察・資料活用技能・表現」について、どこでどんな力を身に付けるのか、実践を通してより具体的な評価規準へと改善していく必要がある。資料と資料を関連付ける技能や社会的事象の意味を考える力などは特に留意が必要である。

(2) 指導方法の工夫改善

社会的事象の意味を追究する問題解決的な学習の一層の充実を図り、その過程において事実に基づいた個の予想を大切にするとともに、予想を検証する資料を選択したり収集したりする場の一層の充実を図る必要がある。また、根拠となる事実や視点、立場を明確にして論理的に考え判断する力を身に付けていく指導の一層の充実が求められる。そのためには、個の追究の様相に応じて「どの資料のどこからどう考えたか」「どういう視点や立場で考え、判断したか」について児童が自ら自覚できるよう適切な働きかけをしていくことが大切である。同時に、根拠や視点、立場を明確にしたわかりやすい表現の仕方について、継続して指導すると一層効果的である。

(3) 学習環境の工夫、学習集団の育成等

産業学習で活用する日本地図や各種の統計資料の活用の仕方などを掲示し、日常的に活用し指導に生かすことによって、より確実な定着を図ることが大切である。また、互いのよさを認め合いつつ根拠が曖昧な意見や非論理的な思考については、相互に練り合い、見方や考え方を高め合うことができるよう、継続的・段階的に指導することが求められる。